

日 時：平成26年 4月16日 14:00～16:00
場 所：島田市役所 第3委員会室南
参加者：島田市地域医療を支援する会会員（10名）

島田市及び島田市地域医療を支援する会で今後の地域医療のあり方や新病院の建設地に関する意見交換を行った。

1 地域医療のあり方

- ・当会は、自治体立病院の破綻を防ぐことを目的として、6年前から発足した。大学病院における医局講座制の廃止により、地方の病院では医師確保が困難となっていることや医療従事者の過酷な労働環境について市民に知ってもらうため、市民への啓発活動を実施している。
- ・「どこで死ぬのか」というアンケートの質問に対して、「病院」と回答した割合は、島田市で66.4%、焼津市で78.9%、藤枝市で67.2%、川根本町で56.5%であった。こうした結果も踏まえ、新病院機能の検討は重要であると考えている。
- ・市立島田市民病院には、これまでと同様に急性期医療に対応するための病院であってほしい。また、循環器科は島田市民、産婦人科は焼津といったかたちで、他の自治体立病院間での役割分担もできていると認識している。
- ・機能を考えるにあっては、医師確保が一番の課題ではないか。需要が増加することが予測されているが、供給力については、島田市として医療従事者確保に協力する旨、基本構想内に盛り込んだほうが良いのではないかと考える。
- ・医師の中でも研修医の確保を考えるのであれば、指導医クラスの医師がどれだけ充実しているのか、交通アクセスの容易性、高度専門的な医療を担っているのかといった研修環境の整備が重要な要素と言える。急性期に特化しなければ研修医が集まらないのではないかと考える。
- ・また、医師にとっては、その家族の生活環境も考慮しなければならない。子供の教育環境整備という要素も医師を集めるために必要と考える。
- ・市立島田市民病院のみですべての機能を担うべきということではなく、島田市財政の許容範囲の中で新病院機能を考えたほうが良い。2つの医師会も合わせたかたちで、在宅医療も含めた地域全体の医療ビジョンを検討したほうが良い。
- ・島田市は、在宅診療を担う医師が少ない地域であるとともに、訪問看護の提供体制も脆弱（市内に24時間訪問看護ステーションが存在しない）である。このため、市民病院と在宅の間の療養機能は不可欠であると言える。
⇒ 今回の基本構想では、一般病床については需要や供給能力を踏まえて検討を行っているが、療養病床や回復期リハビリテーション病床については、政策的な位置づけを踏まえた検討を行っている。
- ・医療行政の流れの中で地域完結型医療という言葉はあるが、現実的には孤独死もあり得る。島田市内に療養病床が市民病院以外にないという現実を踏まえ、地域医療のビジョン策定を行ったほうが良いのではないかと考える。その中で市民病院の位置づけを整理したほうが良いのではないかと考える。
- ・榛原総合病院の件もあり、市立島田市民病院の診療圏が南北に拡大している。島田市と牧之原市等が病院を共同で建設することはできないのか。需要と供給を考慮すると、島田市のみではなく、広域で考えなければ無駄な投資となってしまう可能性がある。

2 建設地の考え方

- 新病院の建設にあつて、現在地は地盤が緩いと聞いている。現在地は適正と言えないのではないか。
 - ⇒ かつて地盤調査を実施したが、駐車場付近には地下38mに支持層があることがわかっている。建築的にはそこまで杭を打てば病院を建設することはできる。また、液状化の影響は地表面に影響を及ぼす可能性は低いという結果も踏まえ、技術的には現在地も選択肢の一つと考えている。
- かつて現在地は、水害を被ったことがあると聞いている。建設場所については防災拠点ということを踏まえて選択したほうが良い。
 - ⇒ 候補地選定にあつては、島田市のハザードマップを参考にしながら場所を決定する予定である。
- 静岡県が静岡空港を防災拠点として考えていることから、20年、30年後を考えると、静岡空港が中心になっているのではないか。市の中央部よりも空港地域を病院建設の拠点として考えてもよいのではないか。
- 市立島田市民病院の役割として、川根地域の患者への対応も考慮してほしい。公共機関を利用する患者にとっては、現病院はアクセスが悪い。バスもいつまで続くか不明であるため、川根地域の住民はいつまで病院に通えるのか不安がある。
- 一番たいへんなのは、市の周辺に住んでいる患者であつて、特に単身の高齢者や独歩できない高齢者の不安は大きいことに留意いただきたい。

以 上